

大分県における小麦新奨励品種「アサカゼコムギ」について

誌名	大分県農業技術センター研究報告 = Bulletin of the Oita Prefectural Agricultural Research Center
ISSN	03888576
著者	村上, 雅二 斎藤, 清男 河村, 敏夫
巻/号	11号
掲載ページ	p. 23-26
発行年月	1981年3月

大分県における小麦新奨励品種 「アサカゼコムギ」について

村上雅二・斉藤清男・河村敏夫

On the New Recommended Wheat Variety
“ASAKAZE-KOMUGI” in Oita Prefecture

Masaji MURAKAMI, Sugao SAITO and Toshio KAWAMURA

目 次

I 緒 言	23
II 試験方法と経過	24
III 試験結果と考察	24
IV 総 括	26
V 引 用 文 献	26

I 緒 言

大分県における小麦の作付は表1に示すように、1973年の作付面積は、2,680haまで減少し、品種は1949年

表一1 小麦の作付面積と品種別作付割合の変遷

項 目		生産年					
		1967	' 70	' 73	' 76	' 79	' 80
麦類作付面積 (ha)		24,961	19,529	4,730	4,575	9,050	10,700
小麦作付面積 (ha)		14,200	11,300	2,680	2,770	3,900	5,370
小麦作付割合 (%)	農 林 61 号	88	89	93	93	89	75
	ヒヨクコムギ	—	—	1	3	4	6
	セトコムギ	—	—	—	—	4	17
	ジュンレイコムギ	5	7	3	2	1	1

(注) 1. 作付面積は大分統計情報事務所、作付割合は大分食糧事務所調査

※ 現大分県庁

に奨励品種に採用した農林61号が依然としてリーディングバラエティであり、作付の93%を占めていた。このことは、農林61号が晩生であり、長稈で倒伏に弱いという欠点を持ちながらも、耐病性、品質、収量の点で安定していたからである。1969年に奨励品種に採用したヒヨクコムギは早生、多収であったが、耐病性、品質の点で安定性を欠き、作付が伸びなかった。1977年にセトコムギを奨励品種に採用し、現在普及しつつあるが、熟期は早い品質がやや不十分である。沈滞した麦作を振興するには倒伏に強く、良質、多収の早生小麦品種の選定が急務となっている。

こういう情勢の中で、1975年より供試した「西海144号」が有望と認められたので、1979年12月に県農

業技術会議にはかり、1980年より奨励品種として普及することになった。なお、本品種は西海115号(のちにヒヨクコムギと命名)を母とし、西海120号(のちにシロガネコムギと命名)を父として九州農業試験場で交配し、選抜、固定された育成品種であり、1978年10月に「小麦農林123号」として登録され「アサ

カゼコムギ」と命名されたものである。

ここに本品種を県下に普及するに当たり、これまでの試験成績を取りまとめて報告し、普及奨励の参考としたい。

II 試験方法と経過

1975年（播種年）に九州農業試験場より西海 144号の配布を受けて奨励品種決定調査に供試し、基本調査4年現地調査3年の検討を行った。また、1978年に播性検定、1978～1979年に播種期に関する試験を実施した。

基本調査は予備調査を1年（全面全層播）、生産力検定調査を3年（全面全層播と畦立条播）行った。全面全層播は11月下旬播種、 a 当たり播種量 1.2kg、 a 当たり施肥量 $N1.1kg$ 、 $P_2O_51.3kg$ 、 $K_2O1.1kg$ 、8～10㎡2区制で行った。畦立条播は11月下旬播種、畦幅140cm、条間30cm、2条播、 a 当たり播種量0.5kg、 a 当たり施肥量 $N0.8kg$ 、 $P_2O_50.6kg$ 、 $K_2O0.6kg$ 、10～15㎡2区制で行った。現地調査は県内の主要麦作地帯7ヶ所を選び、当該地域の標準的耕種法で行った。播性検定と播種期に関する試験は、畦幅70cm、1条播、 a 当たり播種量 1kg、 a 当たり施肥量 $N1.0kg$ 、 $P_2O_51.4kg$ 、 $K_2O1.0kg$ 、0.7㎡1区制で行った。

アサカゼコムギを選定する間に供試した品種、系統は次のとおりである。シロガネコムギ、サキガケコムギ、西海140号、西海145～153号、中国119～126号、関東84号、関東87号、関東89～93号、関東95～97号。

III 試験結果と考察

奨励品種決定基本調査成績は表2のとおりである。出穂期はヒヨクコムギより1日、セトコムギより3日、農林61号より7日早い。成熟期はヒヨクコムギ、セトコムギより1日、農林61号より3～4日早い。稈長は75cm程度の短稈である。穂長はヒヨクコムギより短い、セトコムギより長く、農林61号と同程度である。穂数はヒヨクコムギより多く、セトコムギ、農林61号に比べ全面全層播では多いが、畦立条播ではやや少ない。子実千粒重はヒヨクコムギより軽い、セトコムギより重く、農林61号と同程度である。収量は全面全層播ではヒヨクコムギと同程度、セトコムギ、農林61号より多収であるが、畦立条播ではヒヨクコムギより低収で、セトコムギ、農林61号と同程度である。子実の品質、検査等級は良質の農林61号よりやや良い。

以上の結果、アサカゼコムギはヒヨクコムギに代わり得ると判断される。本品種の特徴を生かすには、短稈で倒伏に強く、穂数を確保することにより多収となるので、多肥密播栽培で能力を発揮すると思われる。

奨励品種決定現地調査成績は表3のとおりである。出穂期、成熟期は基本調査と同様、ヒヨクコムギなみの早生である。収量はヒヨクコムギより多収で、セトコムギ、農林61号と同程度である。品質、検査等級は基本調査と同様に良い。以上の結果、アサカゼコムギは地域適応性が広く、県内各地で栽培可能と思われる。

表一2 基本調査成績

栽培式	品 種 名	播種期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	㎡当穂数	子実千粒重	a 当子実重	同左比率	品質	検査等級
												等
全面全層播	アサカゼコムギ	月日 11.25	月日 4.16	月日 6.2	cm 76	cm 8.4	本 673	g 34.0	kg 51.2	% 101	2.3	1.5
	ヒヨクコムギ	11.25	4.17	6.3	83	9.9	549	36.2	50.6	100	3.3	2.3
	セトコムギ	11.25	4.19	6.3	82	7.6	643	30.1	48.5	96	3	2.5
	農林61号	11.25	4.23	6.6	93	8.7	614	34.8	47.0	93	2.8	2
畦立条播	アサカゼコムギ	11.24	4.16	6.3	75	9.0	356	36.2	38.4	95	1.7	1
	ヒヨクコムギ	11.24	4.17	6.4	83	10.7	342	38.2	40.3	100	2.7	1.7
	セトコムギ	11.24	4.19	6.3	83	8.2	397	34.0	38.2	95	2	2
	農林61号	11.24	4.23	6.7	92	9.1	376	37.4	38.9	97	2	1

(注) 1. 全面全層播は1975～1978年、畦立条播は1976～1978年の平均値。

2. 品質は上1～下6の6段階。

表一3 現 地 調 査 成 績

項 目		試 験 場 所		準 平 坦 地		平 坦 地		
		玖 珠	竹 田	緒 方	山 香	大 分	豊 後 高 田	中 津
試 験 年 度		1976 1977	1976 1977	1976 1978	1976 1978	1976 1978	1976 1978	1976 1978
播 種 期 (月.日)		11.13	11.21	11.25	11.23	11.22	11.25	11.25
出 穂 期 (月.日)	アサカゼコムギ	4.24	4.26	4.18	4.24	4.20	4.19	4.17
	ヒヨクコムギ	4.26	4.26	4.19	4.23	4.20	4.20	4.17
	セトコムギ	—	—	4.21	—	4.20	4.20	4.20
	農 林 61 号	—	—	4.22	—	4.23	4.24	4.22
成 熟 期 (月.日)	アサカゼコムギ	6.15	6.11	6.5	6.6	6.4	6.7	6.6
	ヒヨクコムギ	6.16	6.9	6.5	6.6	6.4	6.8	6.5
	セトコムギ	—	—	6.5	—	6.4	6.8	6.7
	農 林 61 号	—	—	6.8	—	6.10	6.11	6.9
収 量 比 率 (%)	アサカゼコムギ	103	102	112	103	87	102	95
	ヒヨクコムギ	100	100	100	100	100	100	100
	セトコムギ	—	—	109	—	88	105	91
	農 林 61 号	—	—	114	—	93	110	94
品 質	アサカゼコムギ	4	2	1.5	3	3.7	3.5	2.7
	ヒヨクコムギ	4	2.5	3	3.7	3.7	3.5	3
	セトコムギ	—	—	2	—	3.7	3.5	3
	農 林 61 号	—	—	2	—	3.7	3.5	3
検 査 等 級 (等)	アサカゼコムギ	—	—	—	2	2.7	2	1.7
	ヒヨクコムギ	—	—	—	2.7	2.7	等外上	2
	セトコムギ	—	—	—	—	2.7	2.5	1.7
	農 林 61 号	—	—	—	—	2.3	2	1.7

(注) 1. 成績は各場所の平均値。 2. 品質は上1～下6の6段階。

播種期に於ける成績を表4に示した。1978年3月16日より半月毎に播種した結果、座止るようになった播種期はセトコムギより早く、農林61号と同じである。したがってアサカゼコムギの播種性はIIと判定される。

播種期に関する試験成績は表5のとおりである。標準播種期の11月16日播でどの品種も多収となっている。早播きでは、春播性が高い(播種Iが春播性が最も高い)品種ほど減収し、秋播性の比較的高いエビスコムギ(播種IV)は減収程度が少ない。このことは春播性の高い品種ほど幼穂形成始期、節間伸長開始期が早いので早春の寒害を受け易いためである。晩播で

は、どの品種も生育量不足により減収するが、春播性が高い早生の品種ほど出穂期、成熟期が早くなる。以上の結果、アサカゼコムギは平均気温10℃程度の時期に播く標準播種期が安定して多収を示す。早播きは寒害を受ける危険があるので避ける。作業上播種期が遅れた場合減収するが、熟期が早いので後作との関連で有利である。

つぎに、育成地でとりまとめた諸障害に対する抵抗性について述べると、農林61号に比べ萎萎縮病に強く、赤かび病には農林61号程度で強い方であるが、うどんこ病、赤さび病にはやや弱い。穂発芽性は難であ

る。

その他の特性として、アサカゼコムギは穂が白稈であり、既存の農林61号、セトコムギは褐稈であるので、採種上識別が容易である。

IV 総 括

アサカゼコムギは短稈穂数型で耐倒伏性が強いので機械化適応性が高く、全面全層播、ドリル播などの穂数確保の容易な多肥密播栽培で能力を発揮すると思われる。反面、生育量不足や湿害を受けた

表一4 播 性 検 定 (1978)

品種名	播種期 (月・日)				播 性
	3.16	3.31	4.15	5. 1	
ゴガツコムギ	5.16	5.25	6.1	6.18	I
セトコムギ	5.20	5.28	6.5	—	I~II
農林61号	5.23	5.30	—	—	II
エビスコムギ	—	—	—	—	IV
アサカゼコムギ	5.22	5.29	—	—	II

(注) 1. 表中の数字は出穂期(月・日)、一は座止したことを示す。

表一5 播種期と出穂期、成熟期、収量 (1978~1979)

項 目	播種期 (月・日)	出穂期、成熟期、収量						
		10.17 (11. 3)	11. 1 (11.12)	11.16 (11.27)	12. 1 (12.18)	12.15 (1. 8)	12.27 (1.29)	1.16 (2.13)
出 穂 期 (月・日)	ゴガツコムギ	3.20	3.28	4. 7	4.15	4.18	4.21	4.25
	セトコムギ	3.24	3.29	4.10	4.18	4.21	4.25	4.30
	農林61号	4. 2	4.13	4.16	4.22	4.24	4.29	5. 2
	エビスコムギ	4.13	4.14	4.18	4.22	4.24	4.29	5. 4
	アサカゼコムギ	3.23	3.27	4. 5	4.15	4.19	4.24	4.27
成 熟 期 (月・日)	ゴガツコムギ	5.22	5.25	5.29	6. 4	6. 6	6. 7	6. 9
	セトコムギ	5.22	5.25	5.28	6. 5	6. 7	6. 9	6.11
	農林61号	5.26	6. 4	6. 6	6. 8	6. 9	6.11	6.13
	エビスコムギ	6. 4	6. 4	6. 6	6. 8	6. 9	6.11	6.13
	アサカゼコムギ	5.22	5.25	5.28	6. 4	6. 6	6. 9	6.10
子 実 重 (kg/a)	ゴガツコムギ	1. 7	7. 4	33. 4	27. 7	30. 9	26. 3	21. 1
	セトコムギ	9. 4	28. 0	32. 6	30. 0	42. 6	28. 9	32. 0
	農林61号	20. 9	32. 1	50. 6	34. 6	37. 1	31. 7	33. 1
	エビスコムギ	32. 3	34. 7	52. 3	40. 0	36. 0	29. 4	33. 4
	アサカゼコムギ	4. 3	36. 1	55. 4	28. 3	34. 3	34. 6	31. 1

(注) 1. 播種期の項()は出芽期を示す。

場合は短稈化し減収するので、排水や肥培管理に留意する。出穂期、成熟期がヒヨクコムギ程度の早生であるので平坦から準平坦地帯までの水田裏作に適し、また県下一円の畑地にも栽培可能である。品質は農林61号と同程度に良質である。したがってヒヨクコムギに代えて奨励品種に採用することにより積極的な小麦の作付推進が図れることを期待する。

本報告をまとめるに当たり、ご協力を頂いた各農業

改良普及所の担当諸氏、ご指導を受けた育成地の方々、当所次長谷川渡氏、前作物部長猪山純一郎氏に深く謝意を表する。

V 引 用 文 献

- 九州農業試験場(1978)：小麦新品種に関する参考成績書(西海144号)